

1 経営理念(ミッション・ビジョン)

2 めざす子供像

I 教育に係るマネジメント (1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)子供の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプルイズベストが定着した学校 <高い質>	柔軟に考える かしこい子 挑戦する たくましい子 集中する さわやかな子
II 組織に係るマネジメント (1)子供も教師も自らの伸びを自己評価しながら、学びを楽しむ学校 (2)ミドルアップダウン、DCAPサイクルによる組織運営	『リーダーになろう ～夢・挑戦・感動～』

3 経営目標・評価項目・評価・達成状況

	評価計画				自己評価						
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標		時期	達成値	短期経営目標の達成状況	評価	改善方策
					評価項目	目標数値					
確かな学力	基礎・基本の学力を定着させ、活用力を伸ばし、思考力・判断力・表現力を育てる	整った文字を書き、文章や言葉で豊かに伝える力を育てる	1	1 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。(算数科・国語科を中心に) 2 整った文字で、表現を工夫しながら毎日日記を書くことに取り組む。	1 学期末、学年末テストの平均値による。(算数科・国語科) 2 日記を「整った文字で」「学習した漢字を使って」「分かりやすい日記の書き方を意識して」書いているかどうか、アンケートと教師の見取りで評価する。	1 テストの平均通過率80% 2 児童アンケートと教師の見取りの肯定的評価の平均が80%	中間	1 平均86.5% ・国語88.8% ・算数84.8% 2 平均77.2% ・児童 85.9% ・教師68.5%	1 6学年中、国語は5/6学年、算数は6/6学年で達成している。算数では、文章問題の問題文の意味をきちんととらえさせる取り組みが必要である。 2 児童の肯定的評価は達成できたが、教師の肯定的評価が目標を下回った。	B B	1 国語科では、読み取りの問題の問いに対するキーワードの見つけ方の指導が必要。チャレンジタイムのワークを活用して取り組む。算数科では、「分かっていること」「求めること」をはっきりさせて、絵や図を使って問題の意味を把握させる。課題解決学習の手順を踏んだ取り組みを行う。 2 児童と教師の評価に差がある。手本となる日記の書き方や字を示すことで、評価の差を埋め、継続的に指導を行う必要がある。
					1 テストの平均通過率80% 2 児童アンケートと教師の見取りの肯定的評価の平均が80%	年度末	1 平均86.0% ・国語89.3% ・算数82.8% 2 平均78.8% ・児童 88.5% ・教師 69.0%	1 6学年中、国語は6/6学年、算数は4/6学年で達成している。国語は読む力が付いてきている。算数では、九九や計算の順序、小数、概数などの文章問題に課題があった。 2 中間報告と同様に、児童の肯定的評価は目標を上回ったが、教師の肯定的評価が目標を下回った。	B B	1 教師が1時間のねらいをはっきり持って取り組む。国語科では、読む力をさらに付けるために読書の励行やワークを活用して短時間で大まかな内容をつかめるような取り組みを今後も継続する。算数科では、特別支援学級での児童が身近に考えられるような課題の設定の取り組みを参考にして、問題の提示を工夫し、題意を正しく把握させ、児童が解決の見通しが持てるようにする。次に、考えを絵や図、式、言葉を使ってを交流しあい、よりよい考えするための集団解決の時間を大切にすることを進める。 2 児童と教師の肯定的評価に差があるが、中間よりも数値が回復してきている。今後も、日記の書き方指導や丁寧な文字の指導を継続して行うことで、改善を図りたい。	
豊かな心	他者と共によりよく生きようとする豊かな心を育てる	心を育て、豊かな生き方の基盤となる読書活動を推進する	2	1 神石小読書百選の活用により学年に応じた読書目標を達成する。	低学年は毎月20冊以上、中学年は毎月500ページ以上、高学年は毎月800ページ以上読み、月ごとの読書量を記録する。また、学年対象の読書百選を月2冊以上読む。	中間 75%	中間 87.7%	1 中間の目標数値75%であったのに対し、87.7%の児童が目標を達成することができた。	B	1 毎月の読書目標を達成できる児童が多い反面、達成できない児童も少ないが固定化はされているため、継続的な声かけと読書へ興味を引くような働きかけが必要である。	
					年度末 85%	年度末 91.3%	1 年度末の目標数値が85%であったのに対し、91.3%の児童が目標を達成することができた。	B	1 継続的な声かけや図書委員会の興味を引くような働きかけで、中間の時より毎月の読書目標を達成できる児童が増えた。さらに、レベルアップした読書活動を仕組み、量から質への転換を図りたい。		
健やかな体	目標を持って進んで体をきたえ、やりぬく気力と体力を育てる	児童が自ら体力を高め、健康な生活を創り出す力を育てる	3	1 走力・握力を向上させるために、マラソントimeで持久走、短距離走、サーキット運動を継続し、体力向上を奨励する。 2 健康の維持向上を図るため、3S(手の清潔・お口の清潔・トイレの清潔)に取り組む。	1 5月と10月の新体力テストを比較し、50m走と握力の記録について、5月の記録を80%以上の児童が上回る。	①50m走 80% ②握力 80%	中間	1:①80% ②50% 2:92.5%	1 ①50m走について、80%の児童が5月よりも記録が向上した。また、学校全体で0.5秒記録が向上した。②握力については、約半数の児童しか結果が向上しなかった。 2 3Sの調査を毎月実施し、中間の達成率は目標値を超えた。	B A	1 ①引き続き、マラソントime等の取り組みをしていく。 ②鉄棒・のぼり棒・ハンドグリップ等を使って握力向上に向けて取り組む。体育館でのロケット投げ等の投擲を繰り返す。 2 評価項目、特に歯みがきについては内容を更新しつつ、また歯みがきテストや指導教材の開発により、可視化を図る。
					2 3S(手の清潔・お口の清潔・トイレの清潔)について、毎月振り返り調査を実施して達成状況を把握し、行動の定着を図る。	中間:85% 年度末:90%	年度末:95%	1 ①マラソントimeだけでなく、3学期にはなわとびタイムを実施した。 ②大休憩にロケット投げを行って、筋力のトレーニングを行った。 2 3Sの調査を毎月実施した。「お口の清潔」について「歯みがきの方法」を3学期は内容を毎回更新し、質的向上を図りながら年度末目標を達成できた。また、歯みがきテストや視覚教材により、「神石小学校の歯みがきルール」の習得や共通理解をすることができた。	B A	1 来年度も引き続きマラソントimeやなわとびタイムを行って児童の走力アップを図り、持久走に関わる取り組みを行っていく。また、今年度の体力テストで分かった課題のある項目について、来年度も対策を講じていく。 2 「3S」や「神石小学校の歯みがきルール」を来年度も継続し、歯みがきのスキルアップを図る。	
信頼される学校	児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る	安心して伸び伸びと力が発揮できる、行きたい・行かせたい学校を創る	4	・3E(自分・友達・学校のいいところを見つける)作戦を実施する。 ・生活の中で見つけた友達のいいところを学級で話し合い、帰りの会でいいところ見つけをしたり、月一回の学級代表者会を通して各学級に伝えたりする。	・学期末に行ういじめアンケートの項目にある「自分にはいいところがある。」の質問に対して、「ある」と答える児童の割合を90%以上にする。 ・運動会、公開研究会、学習発表会において、保護者・地域の方に対して「児童は、伸び伸びと学習(活動)をしていましたか。」の質問を行い、「よかった」と答える割合を90%以上にする。	中間:80% 年度末:90%	中間 いじめアンケート 85% 学校評価 100%	・1学期末の集計より、「自分にはいいところがある。」との質問に肯定的な評価をした児童の達成率は目標値を超えた。 ・運動会、公開研究会のアンケート結果集計より、目標値を超えて達成することができた。	A A	・学校内でのいいこと見つけを継続して行うとともに、児童に対して肯定的評価を積極的に行う。 ・肯定的な評価が多かったため、保護者・地域に学校での様子を、児童を通じて伝えられるよう指導する。	
					・中間評価の時点より、「自分にはいいところがある。」との質問に肯定的な評価をした児童の達成率は増加したが、目標値に到達することができなかった。 ・一年を通して、肯定的な評価が多く、目標を十分に達成することができた。	年度末 いじめアンケート 88% 学校評価 100%	・「いいこと見つけ」をして、他者からの評価が形として増えていくことで、自分自身の自己肯定感を高めていくことができた。来年度は、掲示だけではなく、全校で紹介する場面や、友達に伝えられる場面を設定し、さらに向上していく。 ・発表の場を通じて、保護者・地域に学校の様子を伝えることができた。来年度は、保護者・地域関係者アンケートの項目の「『リーダーになろう』自分のよさを発揮し、輝いて生きる子」の肯定的評価を向上させていくことで、信頼される学校づくりをしていく。	B A			